

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	2008年4月16日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 16時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 笑靨の里 ( 鹿児島県 )
-------------------	--------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<b>30</b>

評価調査員の氏名	氏名 <u>水流 凉子</u>
	氏名 <u>石松 成子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>野元 政子</u>
ヒアリングを行った職員数            3名	

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 20日

### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670103060号		
法人名	医療法人 仁愛会		
事業所名	グループホーム 笑憩の里		
所在地	鹿児島市吉野町5221番地1 (電話) 099-295-8650		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年4月16日	評価確定日	平成20年5月2日

【情報提供票より】 (平成20年 3月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 8人,	常勤換算13.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有 ( 円)	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 ( 3月 23日現在 )

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	花倉病院 ・ つかさ歯科
---------	--------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、鹿児島市郊外の高台に立地し、桜島や夏の花火大会も居ながらに眺めることができる。利用者は、自然の中の広い庭で散歩やレクリエーションをする等、自分のペースで過ごしている。管理者・職員は基本理念に添って、勤務時間を工夫したり、利用者の思いや意向を受け入れ、一人ひとりを尊重したケアを実践している。地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているホームである。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域の小・中学校との交流や地域のグループホームとの交流など積極的に取り組んでいる。運営推進会議で、家族の意見や要望を聴く機会を設けている。運営推進会議に多くの人々に参加してもらい、充実した会議を定期的開催している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は評価の意義を理解し全職員で評価に取り組み、評価をサービスの質向上に活すよう取り組んでいる。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議の中では、家族からの要望や地域の情報など多くの意見がだされ、終了後は会議の報告書を作成して、家族や関係者に配布することにより、サービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月[笑憩の里便り]を作成し、利用者の様子などわかりやすく報告している。説明文書に苦情・相談の窓口を明記し、面会時には相談や話を聴くようにしている。運営推進会議に家族にも参加してもらい、意見や要望を聴く機会を設け、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議等に住民代表に参加してもらっており、地域との連携は取れている。地域の小・中学校のボランティアを受け入れたり、運動会の見学、バザーへの参加など地域の人々との交流に積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

主任調査員 水流涼子 / 調査員 中村 朋美

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念について、全職員で話し合い、役割を考えた事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事務所や和室・玄関の見やすい所に掲示している。管理者、職員は毎日のミーティングやケアサービスの中で理念について話しあい共有して、実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に、地域代表も参加してもらうとともに、地域の小・中学生の体験学習を受け入れたり、運動会の見学やバザーなどへ出かけ、地域の人々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解し、全職員で評価に取り組んだ。評価を活かして、サービスの改善に活かすよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くのメンバーに参加を呼びかけ、テーマを決め、定期的開催している。会議の報告書を、関係者等に配布し、会議での意見をサービス向上に活かしている。		

グループホーム笑憩の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談を受け入れたり、担当職員とも積極的に連携を取っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月笑憩の里便りを作成し、入居者の様子などわかりやすく報告している。健康診断や出納状況も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に苦情・相談窓口を明記し、面会時に相談や意見を聴くようにしている。運営推進会議に家族代表に参加してもらい、意見を表す機会を設けている。出された意見については、職員会議等で報告して、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することが重要と認識している。やむを得ない離職や異動の対応については、ユニット間で適正な配置を行って、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当を決め、勉強会を行っている。外部研修の情報も職員に伝え、研修に参加している。研修報告を行い、他の職員も研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。近隣のホームとお互いに夏祭りに招待したり、バザーに参加したり交流を行っている。交流を通してサービスの質向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、見学を勧め、直接本人や家族に会って話をしている。職員に利用者の状況を理解してもらい、家族の協力も得ながら、徐々に馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から園芸やおやつ作り・味付けなど教えてもらうことが多い。入居者の生活歴から、学ぶことや元気をもらっており、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者にカンファレンスに参加してもらって、意見や思いを聞いている。職員は利用者との会話の中で気づいたことを記録して、本人の意向把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、主治医の意見を参考に、本人・家族、の思いや意向を聞き、職員の気づきやアイデア等話し合っ、利用者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人・家族の要望や状態変化があった場合、支援経過に記録している。計画的な見直しや状態変化に合わせたカンファレンスにより、計画は現状に即して作成されている。		

グループホーム笑憩の里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	往診や家族の要望に応じて通院支援も行っている。正月など外出や外泊の支援も行っている。デイサービスとの交流や、マッサージの利用も支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。往診による診察や利用者の情報提供表を作成する等、主治医との連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については指針を決め、利用者や家族に説明している。対応が必要な場合は、主治医や家族と話し合い方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーの確保について、職員会議等で話しており、言葉かけや対応に配慮している。入職時に個人情報の管理について誓約させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態や状況にあわせた支援を実施している。利用者のペースを優先するように職員の勤務体制も工夫している。		

グループホーム笑顔の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量に応じて、調理の準備や後片付けなど手伝ってもらっている。食事の形態や席など工夫し、職員も会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の半数の入浴を支援しており、希望者は毎日入浴できる。利用者の習慣や希望で午後に入浴することが多い。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に応じた、食事の準備・片づけの手伝いや、テレビを見たりカラオケ・踊りなどの楽しみごとや、家族の来訪・月命日の外出など心のやすらぎの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム内外の散歩をしている。玄関先の椅子でくつろぎ、気分転換を図っている。季節の花や海を見に行くなどの外出支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を、管理者・職員は理解している。外出傾向のある利用者は、職員が見守り、話を聞いたり、一緒に外出したりして、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。地域の人々の協力については、運営推進会議で働きかけている。		災害に備えて、食料・飲料水等の準備をしておくことが望まれる。

グループホーム笑顔の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックや水分摂取量の確保に配慮している。栄養バランスについては、協力病院の栄養士のアドバイスを受けている。毎月体重測定を実施し健康維持に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の横に吹き抜けの小さな中庭があり、明るい光が差し込んでいる。季節の花や飾り物などがあり、家庭的な雰囲気の中で、入居者は好きな場所で自由にくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・テレビ・写真・椅子・仏壇・人形など、家族の協力も得て持ち込まれており、落ち着いた居室作りが配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。